

横浜市退職小学校長会



第67号

令和3年8月19日
横浜市退職小学校長会
会長 大久保重則

ホームページアドレス



巻頭言

「HP」開設
「教育の日」

会長 大久保重則

令和三年度「横浜市退職小学校長会」の会長をつとめさせて頂いていただきます。どうぞよろしくお願いたします。

一昨年より続いている新型コロナウイルスは、いっこうに終息する気配を見せていません。これまで何の不都合も感じることなく行ってきた活動が、コロナ禍のため、ことごとくできなくなり、重篤化リスクの高い我々には人と人との交流が制限され、どころなく孤立感と不安にさらされました。会員の皆様にはそれぞれご自身にふさわしい生活様式を模索しながら生活を送っておられることと思います。さて、私たち退職小学校校長

会の念願だった「HP」をいよいよ開設することになりました。ここに至るまで開設委員として携わってこられた方々には、製作に伴う運用や活用、事業部の新設等たいへんなご苦勞をおかけしました。感謝いたします。このHPを利用していただき多くの会員相互の情報交換はもちろんのこと、会員同士の絆が深まることを願っております。

同、連携による人づくり、自分づくりを進めるための教育を一層推進する」ということです。子どもたちが変化の激しい時代の中でたくましく生き抜く力をつけるために、学校、家庭、地域が連携・協働し、国民すべてが教育の大切さを共有し、子どもたちを育んでいく日として「教育の日」の制定運動が進行中です。

神奈川県では「かながわ教育月間」として十月〜十一月にかけて県教委より各市町村に呼びかけが行われています。私たち退職小学校長会もこれを契機に何らかの方法で参加できらばと思っております。

八十五歳での感懐

窪田 晴夫

教え子から今でも年賀状を三、四十通ほどもらう。「高齢故、今年を最後にする。」と書いて送ることにした。自分が二、三十代の頃の教え子が多く、四十代以降は少ないことに気づく。その折々の子どもに接していた時々を思い返した。

その後、内外で活躍している七十代になる最初の卒業生から、「小学生の時のご恩は一生忘れません。」と記した手紙が届いた。「教師になってよかった」と素直に思った。

俳句会「花水木」大輪咲く

濱野 郁子

退職小学校長会に文芸的な部もということ、俳句部会初代部長に推されたのが現顧問の六本木彌太郎先生である。

六本木先生は、俳句に造詣が深い。句会の助言だけでなく、編集にもパソコン操作にも長け、ピンクの花水木が表紙を飾る句誌『花水木』の発行を長く続けてくださった。

二代目部長前橋先生、現部長福田先生へと続く二十数年。俳句部会でお世話になった。桃太郎飛び出しさうな桃届く

まさかの入院体験

阿部 重夫

今年一月、急に起きた不整脈治療のため胸にペースメーカーを植込む手術を受けた。施術は約二時間、麻酔のお陰で痛みもなく知らぬ間に無事終了し、体調も改善した。

主治医や看護師もみな精熟親身。四人居屋だがプライバシーが保たれ、テレビもイヤホンで自由、食事にも献立に工夫が見られた。

コロナ禍で家族との面会はできなかったが、現代医療の恩恵に感謝の一週間だった。

集団疎開

石原 義治

今、思い出しても大変な時期でした。そう小学校三年生の時でした。大東亜戦争が激しくなり、学校の児童が集団疎開になり箱根宮の下のつたや旅館に疎開しました。各町内会ごとに部屋に分かれました。幸いに六年生に兄がいたのでよく面倒をみてくれました。夜になると家が恋しくて泣いていた友達がたくさんいました。先生がその対応に苦勞していました。教師となった私にとって戦争はいけないものでした。

